

# 医師・研究者キャリア支援センター 活動報告書

自治医科大学  
2019



## はじめに

医師・研究者キャリア支援センター長 挨拶  
小宮根真弓 皮膚科学 教授



医師・研究者キャリア支援センターは、2007年に、女性医師支援センターとしてスタートしました。2012年度から、支援の対象を女性医師のみならず男女の医師・研究者に拡大し、現在の医師・研究者キャリア支援センターとして活動しています。

2016年度より、当センターの活動を報告書にまとめることにしました。2019年度も、自治医大の職員の方々が、より快適に仕事を続けていくことができるように、職場の環境改善を目指しています。

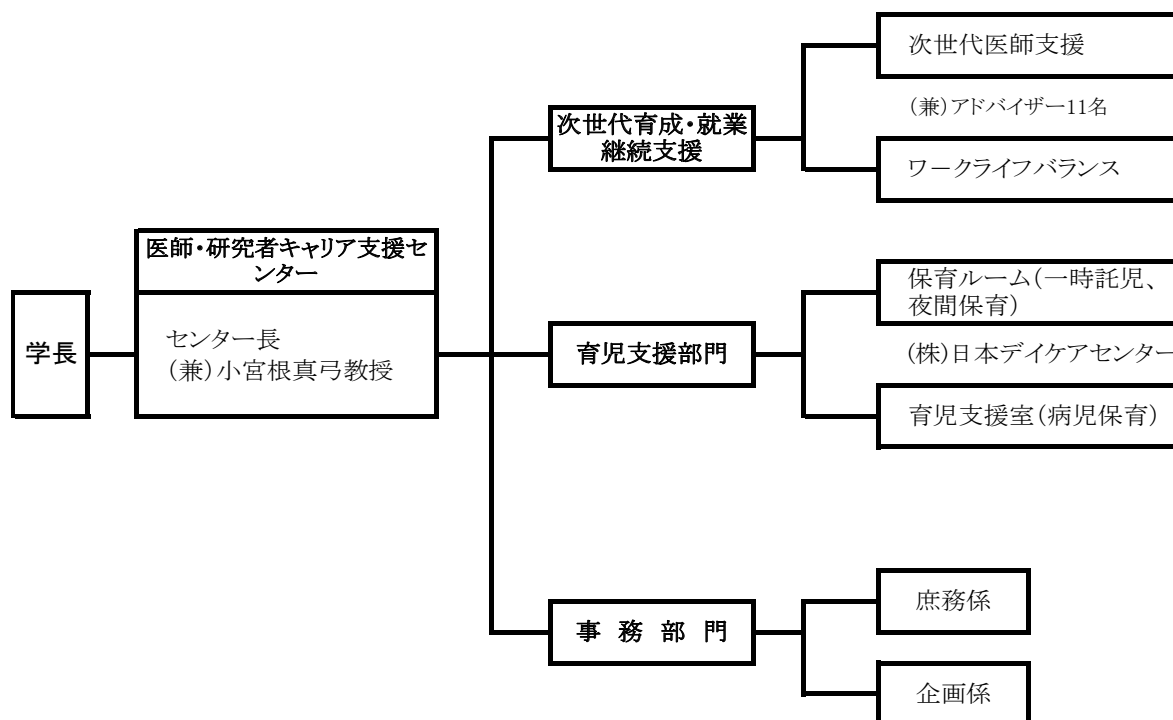
次世代医師・研究者交流会には、各界における著名な先生を講師としてお呼びして、医師、研究者の方々の仕事に対するモチベーションを高めて頂けるようなお話をご講演頂いています。2019年度は、ノーベル賞受賞歴のある大村智先生をお呼びしました。講演では、世界の中で自分の研究を発展させていく探求心、そして研究者として考えるべき方向性について語っていただき、参加者にも力強いメッセージとして伝わりました。また、働き方を考えるセミナーでは、スウェーデンで泌尿器科医として、最新のダ・ヴィンチ手術を専門分野としてご活躍している宮川絢子先生をお呼びしました。先生の仕事や子育て支援、スウェーデンと日本の医療システムの違いなどをお話いただき、キャリアや働き方を考えるきっかけとなりました。

Jichi Joy Café(JJC)は2016年度より、総合診療内科の石川由紀子先生が中心になって始めた活動です。2019度は「多様なキャリアを理解しあう」をテーマに、キャリアの継続と家庭の両立について情報交換し、働きやすい職場づくりを考えるための交流会を、2回開催しました。特に、2回目の開催では、国境なき医師団としてご活躍経験のある鈴木美奈先生をお呼びし、ご自身の体験を語っていただきました。今後も同じ悩みを共有できる仲間のネットワークづくりに多くの職員の方々に利用していただければと思っています。

保育ルーム「あいりす」では、一時保育、病児保育、夜間保育、送迎等、これまで通り継続して行っています。2019度も多くの利用者がありました。

今後も、より充実した支援体制・活動を目指してまいります。当センターを最大限に活用していただければ幸いです。

## 医師・研究者キャリア支援センター体制



### スタッフの紹介 ※新任

- ・ センター長 小宮根真弓 (皮膚科学教授)
- ・ アドバイザー 石川由紀子 (地域医療学センター講師)
- ・ アドバイザー 山形 崇倫 (小児科学教授)
- ・ アドバイザー 黒須 洋 (抗加齢医学研究部准教授)
- ・ アドバイザー 小川 真規 (保健センター教授)
- ・ アドバイザー 鴨下 信彦 (病態生化学講師)
- ・ アドバイザー 小形 幸代 (循環器内科学講師)
- ・ アドバイザー 川合 志奈 (小児泌尿器科講師)
- ・ アドバイザー 高橋 将文 (細胞生物研究部准教授)
- ・ アドバイザー 加藤 梨佳 (精神医学助教)
- ※ アドバイザー 山邊 昭則 (学生生活支援センター准教授)
- ※ アドバイザー 秋根 大 (保健センター助教)
- ※ 園 医 村松 一洋 (小児科学准教授)
- ※ 園 長 神田 貴代 (看護副部長)

## ➤ 2019 年度 活動状況一覧

- 1 次世代育成支援      ○ 次世代医師・研究者講演会（4/19）  
「私の研究と社会貢献」  
北里大学特別荣誉教授、ノーベル生理・医学賞受賞者 大村智氏
- 2 就業継続支援・復職支援（随時）
  - ・勤務継続のためのカウンセリング、コーディネート
  - ・短時間勤務者フォロー
  - ・Jichi Joy Café（7/12, 9/17）○「働き方を考えるセミナー」講演会（12/18）  
カロリンスカ大学病院/慶應義塾大学医学部客員講師 宮川絢子氏
- 3 育児支援
  - ・保育ルーム「あいりす」を運営し、一時託児  
夜間保育・病児保育を実施
  - ・医学部1年生保育ルーム見学（6/13, 6/27）
  - ・パパとママの子どもの食事の話（10/18）
  - ・小児科の医師からパパ、ママに伝えたいこと（11/26）
  - ・サポート会員懇親会（1/17）
  - ・BLS 研修会（10/21, 10/28, 11/5, 11/11）
  - ・夏祭り（8/3）、クリスマス会（12/14）
- 4 地域医療従事医師支援      ・本学卒業生のワークライフバランスを考える会  
（地域医療推進課で実施）
- 5 附属病院事業      ・All Jichi Project(若手医師交流会) 9/24
- 6 アンケート調査の実施      ・働きやすい環境作り(Good Practice)アンケート
- 7 広報誌発行      ・ニュースレターの発行（4回）



## 1. 次世代育成支援

自治医科大学 第15回 次世代医師・研究者交流会

ノーベル生理学・医学賞

第1部 講演会

# 大村 智 先生 講演会

「私の研究と社会貢献」

—至誠天に通ず—

ノーベル生理学医学賞受賞者が唱える人をつくる言葉



北里大学特別荣誉教授  
(学) 女子美術大学名誉理事長

2019年4月19日(金) 18:00~19:35

自治医科大学

地域医療情報研修センター大講堂

1部2部ともに  
託児室が  
利用できます  
事前申込要

19:40~21:00  
研修センター 西洋堂

学長(永井先生)・新副学長(大槻先生)と語ろう♦♦

第2部  
学内交流  
懇親会

—若手が活躍するこれからの自治医大— 研究、留学、キャリア

話題提供 1) 大槻 マミ太郎 教授(皮膚科学) 司会: 阿部 朋行 講師  
2) 氣駕 恒太郎 講師(細菌学) (再生医学)

無料  
事前参加申込要  
先着 50名

学部生・大学院生・教職員・医師・新入生等の皆様、交流を深めましょう。

<お問い合わせ・託児室 & 懇親会 申込み先>

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター 事務局(担当 青木、長瀧)

TEL: 0285-58-7561(内線:2448) FAX: 0285-44-8627 E-mail: career-support@jichi.ac.jp

## 「2019 年度 次世代医師・研究者交流会」講演会開催報告



2019 年 4 月 19 日、北里大学特別名誉教授 大村智先生を講師にお招きして、第 15 回「次世代医師・研究者交流会」講演会が開催され、学内外から 283 名の方が聴講されました。

大村先生は、イベルメクチンの開発に取り組み、寄生虫感染症の治療法確立に貢献し、また生涯にわたり 170 を超える新たな化学物質を発見し、これらの功績から、2015 年には、ノーベル生理学・医学賞を受賞しています。

講演会では、大村先生自身の研究の出発点から、アメリカ留学、そして日本に戻られてから、国境を越えた研究を進めてきたことをご紹介されました。一つの小さな研究フィールドが世界規模の研究へと発展していくスケール感や、世界の中で自分の研究を発展させていく探求心、そして研究者として考えてきた、あるいは考えていくべき方向について多くのメッセージを頂きました。

約 90 分の講演の中では、先生自身のいろいろな体験談がみな印象的でした。特に、自分自身を含めた研究者の好奇心や探求心、情熱を強く鼓舞して下さったように感じました。また、質疑応答では、若い学生たちが積極的に質問している姿から、学生たちにも力強いメッセージになったと思いました。

この講演を通して先生が伝えたかったことは、ささいなことにも興味を持ち、努力を積み重ねていく大切さ、そして現状に甘んじることなく、自ら行動していくことの大切さ、「積み重ね、積み重ねてもまた積み重ね」という言葉を体現し、その中でノーベル賞につながる成果を出したことではないかと思いました。

講演後には、先生の研究者としてあるべき姿勢(基礎研究も役に立つ、資金がないからといって諦めない、人の役にたきたい、研究成果を世界の人々と地域の人たちとシェアしたいという信念)に感銘を受けたとの意見が寄せられました。





## 2. 就業継続支援・復職支援

### 1 アドバイザー等による相談受付

勤務継続支援・復職支援・育児支援等に関する相談を行っている。

### 2 マタニティ白衣のレンタル

女性医師を対象に、妊娠中に使用するウエストが調節可能なコートタイプのマタニティ白衣のレンタル（無料）を行った。数年前から、半袖タイプ白衣を導入し、長袖Lを増やし、ニーズに応えられるようにしている。

### 3 「J i c h i J o y C a f e」の実施

当センターの活動の大きな柱の一つとして、キャリアの継続と家庭の両立について情報交換し、働きやすい職場づくりを考えることを目的に、毎回テーマを決めて開催している。対象者は、原則として医師、研究者、学生である。

### 4 「働き方を考えるセミナー」の開催

令和元年度は、「仕事と育児のワークライフバランス」をテーマに、学外から講師を招聘して、講演会及び懇親会・意見交換会を実施した。

- 復職支援として、メディカルシュミレーションセンターの医療安全プログラム及び医療技術トレーニング部門の教育プログラムの利用についてご案内している。





## 「第10回 Jichi Joy Café」開催結果報告

第10回 Jichi Joy café

普段ゆっくり話せない事を、この機会にみんなで話してみませんか？  
育児ストレス、キャリア、仕事負荷や、今更聞けないあんな事、こんな事…等々何でもOKです。

年度テーマ：  
**多様なキャリアを理解し合う In The Jichi**

日時：7月12日（金）12:30～14:00（途中入退室自由）  
場所：医師・研究者キャリア支援センター会議室  
（自治医科大学2号館2階）  
対象者：医師・研究者・学生等の職員  
内容：事前アンケートによるディスカッション  
ファシリテーター：循環器内科学  
講師 小形幸代先生  
精神医学  
助教 加藤梨佳先生

お申込は7月5日（金）迄に下記メールアドレス又はお電話にて医師・研究者キャリア支援センター  
担当専木・長瀬までご連絡下さい。!!軽食をご用意しております！

お問合せ 自治医科大学医師・研究者キャリア支援センター  
TEL：0285-66-7561 内線2448 FAX：0285-44-6627 e-mail：career-support@jichi.ac.jp

2019年7月12日に第10回 Jichi Joy Caféを開催いたしました。今回は初めての試みとして、講演は行わずにディスカッションを中心にさせていただきました。開催前の事前アンケートに基づき、当センターのアドバイザーがファシリテーターとなって参加者の皆様と意見交換を行いました。Jichi Joy Caféの特徴でもある、“暖かな雰囲気のもと 職種や立場を超えて話し合い お互いの理解を深める”ということができた会だったと思います。

職場で「お互いを理解し合う」には何が大切かというテーマでは、コミュニケーション、環境・体制作りなどの意見が出ました。上司から部下に声をかけてくれると話しやすい、上司と定期的な面談を行う仕組みがあると良いなどの意見もあり、医局など部署ごとに取り組みの差があることも分かりました。

今後も多くの方に Jichi Joy Café に参加いただけるように、実施時間や内容を工夫していきたいと思います。都合がございましたら参加して、自由で暖かな雰囲気を感じて頂ければと思います。

また、医師・研究者キャリア支援センターでは皆様とともに「お互いを理解し合う」にはどうしたらよいのか考えていきたいと思います。ご意見等がありましたら気軽にお寄せ下さい。



### 「開催内容」

#### ◆当日タイムスケジュール

- ① あいさつ センター長 小宮根 真弓
- ② 自己紹介
- ③ 事前アンケートによるフリーディスカッション  
ファシリテーター 循環器内科学 講師 小形幸代 先生  
精神科学 助教 加藤梨佳 先生

## 《 事前アンケート結果 》

### 第10回 Jichi Joy café 事前アンケート結果

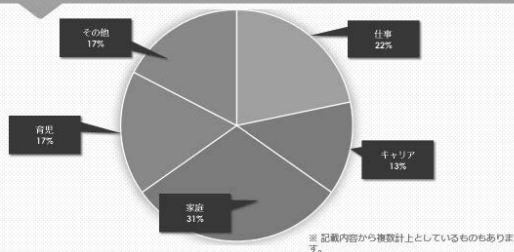
2019年度テーマ

「多様なキャリアを理解し合うIn The Jichi」

普段ゆっくり話せない事を、  
この機会にみんなで話してみませんか？

### 日頃のお悩みや不満（区別別）

n= 13/18（アンケート回収率72.2%）



### Q1. 日頃のお悩みや不満に思っていること？ （仕事、家庭、育児 e t c）

#### 育児・・・

- ＊ 夫は、次男（2才）の面倒見るのは大変なようで面倒見てくれない。夫の仕事疲れを考えると子供の世話を頼みづらい。
- ＊ こどもの「自分でやる」という自立心を、時間に余裕が無く待てあげられない・・・ついつい「早くして」と言ってしまう。
- ＊ 週末に子供の習い事が集中するので、疲れが取れない。
- ＊ 短時間労働者にとっては、こどもの昼休み中は託児で赤字の危機！



## 事前アンケートへのご協力 ありがとうございます♡

本日は、第10回「Jichi Joy café」へご参加いただきまして、  
誠に有難うございます。

#### 本日の参加者

教授1、講師2、助教2、病院助教3、臨床助教2  
非常勤医員1、リサーチレジデント1、ラボラテン3  
大学院生1、医学部生2  
イロイロな職種の皆様にご参加いただいております。👏

### Q1. 日頃のお悩みや不満に思っていること？ （仕事、家庭、育児 e t c）

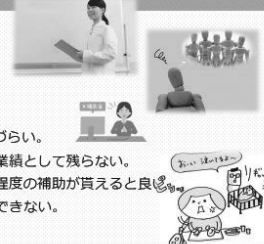
#### 時間・・・

- ＊ 時間がなく仕事と家事、育児をうまく回せない。
- ＊ 実家も遠いため、週末などに自分の時間をつくるのが難しい。
- ＊ 勤務時間はほぼ診療で終わる。時間外に研究を行わなければいけないが、子育てと家庭のことで時間をつくるのが大変。睡眠時間を削ると体調を崩しがちになる。
- ＊ 私も時短勤務で仕事をしているのに、育児、家事のほとんどを私が担当してやらなくてはならないのがやや不満・・・
- ＊ 平日は時短勤務、週末は子供達の事で、時間外の医局の仕事をしていくと申し訳ない。（学会発表、研修会、勉強会など）
- ＊ 今日はもうちょっと残業したいのだけど・・・という時の融通が効かない。
- ＊ 委員会出席、医局連絡、スタッフの勤務時間調整などのマネジメントにける時間多い。

### Q1. 日頃のお悩みや不満に思っていること？ （仕事、家庭、育児 e t c）

#### その他・・・

- ＊ 職場から駐車場までの距離が遠い・・・
- ＊ 卒後のイメージが湧かない。
- ＊ 職場の人間関係について・・・  
職種が違ったり関係性に隔たりがあり仕事がつらい。
- ＊ 講習会のチューターなどの休日出勤が報酬、業績として残らない。
- ＊ 休日出勤中のヘルパー利用の経済負担、ある程度の補助が貰えると良い。
- ＊ 夫との家事育児に対する考え方の違いを修正できない。



### Q2. 直接は言いづらい・・・医局、研究室への要望？

#### 給与・勤務

- ＊ 大学の給料が安い。
- ＊ 土曜日などに休日出勤をしたい。
- ＊ フルタイムではなくても、仕事内容や資格で時給格差が欲しい。
- ＊ 医局会、学会予演会が時間外に行われる。

#### 職場環境

- ＊ 個室が欲しい。
- ＊ 医局員がもう少し増えるとよい。
- ＊ duty業務が多く、研究にあてる時間が足りない。
- ＊ 定期的な個人面談の実施。
- ＊ 評価の方法の明確化。
- ＊ 医局で行う研究や大きな仕事の時、声がかからない。
- ＊ 懇親会、忘年会等の交流の場に女性医師がほとんど参加できない。



### Q3. 職場で「お互いを理解しあう」には、何が必要？

#### ①コミュニケーション

- ＊ 勤務が困難となった時、なりそうなる時、早めに上司に相談する。  
一人で悩まない。
- ＊ 各人の勤務状況や負荷になっていることなどについて知ることが必要。
- ＊ 事情がある時は細かく伝え、相手の困る可能性がある事を先に予測して準備しておく事。
- ＊ 業務の話以外にも私的な会話から、お互いの理解が深まると思う。

#### ②環境・体制作り

- ＊ 忙しくても相談、説明が可能な体制作り。
- ＊ 多様なバックグラウンドを持つ人材確保。



### Q3. 職場で「お互いを理解しあう」には、何が必要？

#### ③その他

- ＊ 他の研究室との交流する機会が増えて、新しいことを覚える機会が増えた。理解し合うというよりは自分自身がほかの分野の手法を知り世界が広がると感じる。



#### <医局取組事例>

- ＊ 女性⇒外来担当、男性⇒入院担当。  
入院チームに負担になりすぎないようアセスメント、マネジメント。
- ＊ 女性でも出来る医局仕事をサポート  
⇒ 勉強会の開催、委員会への参加、図書の整理等々



### Q4. 「裁量労働制」「変形労働時間制」について、 ご意見、ご要望は？

- △ どこまでが仕事なのか線引きが難しい。
- △ 給与などのルールが周知されていない。
- △ リサーチレジデントは「裁量労働制」「変形労働時間制」の対象外？
- △ 時短の先生に正当な時間外手当が払われていない？
- △ 初期レジデントの残業時間の上限を守るため、シニアレジデントの負担が増えている。
- △ 初期レジデントの残業時間上限厳守のため、必要研修時間が不足する。

+

#### △「裁量労働制・変形労働時間制」について

よく知らないという方が多い・・・！

## 「第11回 Jichi Joy Café」開催結果報告

### 2019年度テーマ「多様なキャリアを理解し合う In The Jichi」

9月17日(火)に「第11回 Jichi Joy Café」を開催しました。

今回は、「医療人としてのキャリアビジョンを考える」というテーマで外部講師を招いて講演会形式で実施致しました。講師は新潟大学地域医療境域センター・魚沼基幹病院の産婦人科部長、鈴木美奈先生です。鈴木先生は国境なき医師団として海外でのご活躍経験があり、それらの貴重なご経験を多くの写真をまじえて御講話頂きました。夢をもって努力すること、感謝の心を忘れないこと、スタッフと協力して診療にあたる姿勢など、医療人として本来あるべき姿をメッセージとして残して頂きました。今回は医学部生の参加も多く、「夢を与えて頂いた」「先生のお話を地域医療に活かしたい」など、多数の感想が寄せられました。当センターでは皆さまから頂いたご意見を参考に、働き方の多様性やキャリアについて、今後も話題提供ができればと考えております。



小形幸代先生 センター活動状況についてのご講話の様子

鈴木美奈先生ご講話の様子  
飾らない先生のお人柄がにじみ出ています



参加者聴講の様子：皆さん真剣に聞き入っています

## 講演テーマ：「医療人としてのキャリアビジョンを考える」

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 鈴木美奈先生

<一部抜粋>

### 本日の話の内容

- 1、私が夢をかなえるまでの道のり
- 2、国境なき医師団とは
- 3、ファーストミッション アフガニスタン
- 4、セカンドミッション ナイジェリア
- 5、サードミッション エチオピア
- 6、日本の病院と国境なき医師団の両立
- 7、これから世界に羽ばたく あなた達に伝えたいこと

### 国境なき医師団として働くまでの道のり (医師編)

- 1、医師免許取得
- 2、臨床経験を積む
- 3、書類申請(英語)
- 4、面接(英語)
- 5、登録
- 6、Welcome Days という派遣前講習を受ける(2日間)
- 7、派遣場所が決まり、MSF事務局より連絡がくるのを待つ
- 8、派遣

### 国境なき医師団 日本事務所での事前講習



© Mina Suzuki / MSF

### ナイジェリアの手術室



© Mina Suzuki / MSF

### 手術室とリカバリールーム



© Mina Suzuki / MSF

### 人間は一人では何もできません！



© Mina Suzuki / MSF

### ごはんはこんな感じ



© Mina Suzuki / MSF

### グローバルに生きていくために必要なこと

- ★ 適応力
- ★ 体力
- ★ コミュニケーション力
- ★ 英語力
- ★ 感謝の心
- ★ ぶれない自分



# 働き方を考えるセミナー

子育ても仕事も120%!!  
～ スウェーデンの子育て支援 ～



スウェーデンの子育て支援・働くママ医師から

## 「子育て+仕事120%」

「ダヴィンチ」による年間手術件数 100件超  
スウェーデンで働くスーパー泌尿器科医が語る子育てと働き方とは？

### 宮川 絢子先生

/カロリンスカ大学病院

#### 【プロフィール】

1989年慶應義塾大学医学部卒業。同大学病院、東京済生会中央病院等で研修後、博士号・日本泌尿器科学会専門医を取得。1998年より3年間カロリンスカ研究所、ケンブリッジ大学にてポスドクを務める。その後、琉球大学、東京医科大学に勤務し2007年にスウェーデンに移住。スウェーデンの医師免許、泌尿器科専門医を取得し、現在に至る。慶應義塾大学医学部の客員講師も務め、日経メディカルやTV東京「世界ナゼそこは？日本人」等メディア出演多数。

託児室が  
利用できます  
事前申込要

参加費無料・申込不要

懇親会：西洋堂 19:30～20:30

日時 **12月18日(水)**  
18:00～

会場 **本館北棟 講堂1**

対象 **教職員・学生・その他**



自治医科大学

医師・研究者キャリア支援センター

<お問合せ>

T E L : 0285-58-7561 (2448) F A X : 0285-44-8627  
e-mail : career-support@jichi.ac.jp

## 2019 年度「働き方を考えるセミナー」開催報告

令和元年 12 月 18 日(水)本館北棟 講堂 1 に於いて、「働き方を考えるセミナー」を開催いたしました。

今年度は、遠くスウェーデンの地で活躍の宮川絢子先生に遥々ご足労いただきまして、スウェーデンの子育て支援・働くママ医師から「子育て＋仕事 120%」と題してご講演頂きました。

講話では、スウェーデンと日本の医療システムの違いや男女格差について、さまざまなデータを引用して分かりやすくお話いただきました。中でも、患者側からの厳しいアクセス制限や費用対効果判定による治療の選択・中止等、日本では容認を得られない様な医療システムの浸透には聴講者の方々も皆大変驚いていました。また、宮川先生ご自身のお子様(双子)の出産、子育てを経験している中で、女性外科医としてキャリアを目指す考え方をご提言頂きました。「生きるために働く」、「人生は不公平」というご提言の中に、先生の女性外科医としての強い信念をお示して頂いた講演となりました。聴講者からのアンケートでは、「日本とスウェーデンの両方の国を体験しておられるからこそのお話で大変興味深かった。」「日本の意識改革が継続的に必要であると思った。」「キャリアや働き方について考える機会となりました。」などの様々な意見が寄せられました。

講演会終了後、新館南棟 5 階スカイラウンジにおいて、懇親会を開催し、宮川先生を囲み、学長、副学部、講演会参加者と意見交換を行いました。

医師・研究者キャリア支援センターでは皆さんの働き方改革の少しでもお役に立てるイベントをこれからも随時企画していきたいと考えております。



ご講演の様子



質疑応答の様子



講師紹介 (川合先生)



質疑応答の様子



学長挨拶

### 3. 育児支援

#### ◆ 医学部学生見学会

医学部学生が、社会学の一環として保育ルームの見学を行いました。

令和元年6月13日、27日に実施し、医学部1年生29名の学生が参加しました。



#### ◆ BLS（救急蘇生法）研修会

保育サポーター、保育士等を対象にメディカルシミュレーションセンター教員による講習会を10月21日、28日、11月5日、17日に4回に分けて実施しました。





## ◆ 夏祭り

8月4日 保育ルーム「あいりす」で夏祭りを開催しました。

当日は、22家族 77名（スタッフ含む）の参加がありました。



## ◆ クリスマス会

12月14日 保育ルーム「あいりす」でクリスマス会を開催しました。

当日は、19家族 64名（スタッフ含む）の参加がありました。



## 「パパ・ママと子どもの食事のはなし」パート10 開催報告

1. 開催日：令和元年 10 月 18 日（金）12 時～13 時
2. 場 所：保育ルーム「あいりす」一時託児幼児室
3. テーマ：ちょうどよく食べる～幼児を中心に～
4. 講 師：自治医科大学附属病院 臨床栄養部栄養管理室  
茂木 さつき室長
5. 参加者人数：15 名（会員登録者・看護師長・看護師・事務職・子ども医療センター保育士・保育サ  
ポーター＋子ども同伴 1 名）  
13 名（スタッフ）  
総数 28 名

### 6. 開催内容

- ・参加者は塩分 2g・500kcal のヘルシー弁当を食べながら、講演を聞いた。
- ・講演の内容は「健康日本 21」の適正体重の者増加のスローガンを基に、幼児肥満に関する現状と幼児肥満対策の食事療法について具体的に分かりやすく説明していただいた。この内容は、幼児だけでなく大人の食事の基本にも当てはまっていた。  
アンケートから、バランスよく 3 食きちんと食べることの重要性を学んだ。ほとんどの参加者が自分自身の食生活を振り返り、偏った食べ方や塩分摂取の見直しを考えるきっかけになり大変参考になったと述べており、参加者の関心度が高かった。



## 「小児科の医師からパパ・ママに伝えたいこと」NO9 開催報告

開催日：令和元年 11 月 26 日（火曜日）12 時~13 時

場 所：医師・研究者キャリア支援センター会議室

テーマ：「熱性けいれん、ひきつけ、発作を起こしたら」

講 師：小児科学 准教授 村松 一洋先生（当保育ルーム園医）

参加者：28 名（内訳：看護師 5 名、利用会員 5 名、保育サポーター 9 名、スタッフ 9 名）

### まとめ

1. 今回のテーマは、「熱性けいれん、ひきつけ、発作を起こしたら」として、発作症状を動画で何事例か示した。子どものけいれん発作を見たことが無い参加者が多く、画像からイメージができ、驚きとともに観察と記録の重要性も理解できた様子であった。対処方法も不安だが冷静に対応したいとアンケートで述べられていた。
2. 今回、多くの方は誘われて参加したが、充実した内容であったので、ほとんどの方から参加して良かった・ためになったとの意見が多く聞かれた。今後も多くの子育て中の職員が参加できるように、毎年的好评を伝えるようにしていくことが必要である。



## 令和元年度 保育サポート会員懇親会開催報告

1月17日（金）12時から、保育サポート会員懇親会が会議室で開催されました。

当日は24名のサポート会員の出席があり、当センターのアドバイザーであり、保健センター助教である秋根先生より「インフルエンザにかからないために」と題して講話がありました。

今回は、ホワイトボードを使って、先生とサポート会員が対話する形式で行われ、インフルエンザの予防のためにはよく手洗いをする、発熱した場合には水分補給と安静が大事であること、予防接種は万が一罹患した場合に重症化を防ぐために大切であるから必ず受けること、医師がタミフル等を処方するかどうかは患者の状態を見極め、信頼関係に沿って判断していること等、会員の方々からの質問に対し、ユーモアたっぷりに話され、とてもわかりやすく、ためになったとの多くの意見が寄せられました。

最後に、会員の方々には今後も変わらぬご協力をお願いし、閉会となりました。



## 4. 地域医療従事医師支援

### [医学部] 卒後ワークライフバランスについて考える会 2019 in Jichi が開催されました

令和元年 6 月 30 日（日）午前 10 時から医学部学生寮大ラウンジにおいて、卒後ワークライフバランスについて考える会 2019 in Jichi が開催されました。平成 24 年度から実施している本会も、今回で 10 回目の開催となりました。

今回は「ワークライフバランスとキャリアの進展～どんな LIFE?～」をテーマに、本学卒業生の田鎖愛理先生（岩手県 28 期：岩手医科大学勤務）、神徳穂乃香先生（茨城県 39 期：茨城県立こども病院勤務）、中嶋裕先生（山口県 25 期：山口県立総合医療センター）を招聘し、講演いただきました。

会場には教職員、医学部学生などが多数参加し、卒業生の発表を熱心に聴講していました。

その後、学生寮大会議室において、グループワークと懇談会が行われました。卒業生を交えた 7 グループに分かれて学生と卒業生、また参加教員とで盛んな議論がなされ、交流を深めることができました。

今回、医学部同窓会からの協賛があり、参加者全員にクッキーの差し入れがありました。また、当日は小野剛同窓会長にお越しいただきました。この場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。



## 5 附属病院事業

### 第4回 All Jichi Project 開催報告

9月24日（火）18時半から、医師・研究者キャリア支援センター、及び卒後臨床研修センター共催の「第4回 All Jichi Project」が新館南棟スカイラウンジにて開催されました。

参加者は医師21名（臨床助教9名、レジデント5名を含む）、研究者8名、学生1名、事務4名の計34名でした。

今回は、「臨床研究と基礎研究」をテーマに、医師と研究者の幅広い交流会を企画いたしました。臨床研究プレゼンは大場祐輔先生（循環器内科）、基礎研究プレゼンは黒須洋先生（当センターアドバイザー）が行い、お二人の熱いトークに参加者一同聞き入っていました。プレゼン後、循環器内科へのアプローチ、研究者へのアプローチに関する質疑応答があり、今後の臨床、或いは研究へ新たに興味を持たれた方が多かったのではないかと思います。その後、情報交換会、懇親会を行い、20時半すぎに閉会となりました。





## 6 アンケート調査の実施

### ★働きやすい環境作りについて【Good Practice】のアンケート調査結果★

2020年2月に各講座(診療科)がどのような就業支援の取り組みを実施しているのかを教えるために、働きやすい環境について【Good Practice】調査を実施させていただきました。基礎系講座28、臨床系診療科29、看護学部教科8、計65講座(診療科)を対象に実施し、計24講座から回答いただきました。

結果は学内外で共有させて頂き、今後の就業支援に活用していきたいと考えています。

#### ① 超過勤務、就業規則に関すること

○カンファ、医局会、抄読会、会議の実施時間変更 11件

- ・超過勤務の削減を目的に実施している意見が全部であった。変更時間帯は講座、診療科の状況により、勤務開始前の朝8時、お昼、日中、夕方5時半から開催するなど様々。
- ・非生産的な時間をなくす事を目的に、夜の製薬会社の説明会を中止しWeb講演会を案内してもらう。
- ・フレックス勤務体制の導入として、病棟医師室に記入シートを置き、当番のお昼までの患者の状況、緊急入院の状況等により数人の医師を午後帰宅させ、超過勤務削減しているとの意見もあった。

#### ② 診察や業務効率化に関すること

○カンファ、医局会の効率化 4件

- ・昼休み前後の時間帯の日中実施する事により集中的に討議、検討することで議論を活性化。
- ・毎朝チャートカンファを実施する事により、その日の所在員全員で方針決定、業務を円滑に進められる。
- ・SNS利用によるカンファ情報共有と連絡事項等の周知徹底。
- ・カンファレンスを短縮する事で、業務の効率化を図る。(実施目安1h)

#### ③ 働きやすい職場作りへの環境整備に関すること

○親睦会の実施

- ・新年会、忘年会、暑気払い、歓送迎会、お花見、BBQ、同門会と名目は様々であったが、話しやすい職場環境作りと親睦を深める目的として実施。
- ・実施方法についても様々な工夫が見られ、全員が参加しやすい時間として昼食時に学内又は近隣飲食店にての開催や管理者等との個人面談の実施 10件
- ・実施目的の大多数が就労、業務、私生活に対する不安や悩みのヒアリングと問題解決へのアドバイス。少数意見として、研究シーズの発掘、日常業務改善と効率化の発掘、キャリア展望のヒアリング等。
- ・年1回、管理者と近隣飲食店で食事を取りながら実施しているとの意見もあった。
- ・医局旅行(年1回) 2件

#### ④ 若手等の人材育成に関すること

○管理者との個人面談 3件

- ・年1回コンピテンシーの達成評価及び次年度の目標設定や希望の聴取調整。

○学会、研修会等の参加励行 2件

- ・学会、研究会の情報を定期的に一斉送信。
- ・専門医合格祝賀会の開催により後進研修医の動機付け。

# News Letter

医師・研究者キャリア支援センター  
Vol. 30 2019/ 4/11

## 協栄会様より寄贈いただきました

一般社団法人自治医科大学協栄会様から下記掲載の品々を寄贈いただきました。こちらは、保育ルーム「あいりす」においての当センター育児支援部門の運営、活動にご賛同いただき、毎年寄贈頂いているものです。今年度は、児童書やCD、育児玩具等々多数のお品物を頂戴いたしました。早速、ご寄贈の品々を玩具に目や絵を添えて遊ぶことも遠くまで見られました。来春も大切に使用させていただきます。協栄会様、ご寄贈いただき厚く御礼申し上げます。



## 救急衛生講習会(BLS)



救急医療支援センター

保育ルーム「あいりす」では、全てのスタッフが携わっている子どもの緊急時に対応できる体制を整えることで、利用者が安心してお子様を預けられることを目的としてBLS講習会を開催し、今年で7回目の開催となりました。情報センターの浅田義和先生、シミュレーションセンターの前田佳孝先生お二人の先生に実技を交えながら丁寧に指導頂きました。



参加者からは「実際に直面すると動けなくなりそうなので、何度も受けて直ぐ行動できるようにしたい」と「受講するほどに理解が深まり大変有意義でした」「年1回ですが回を重ねるごとに自信が湧いてきました」「毎年受講していますが継続受講の必要性を感じました。」などの、前向きで意欲的な意見が多く聞かれました。これからも同講習会の定期開催により、救急蘇生法の技術定着を今後もサポートしていきたいと思います。

## 保育ルーム「あいりす」クリスマス会

12月15日(土)保育ルーム「あいりす」にて、大人35名、お子さま27名、計42名の方々にご参加頂きまして、毎年恒例のクリスマス会を開催いたしました。ピアノ演奏に合わせて手遊びをしながらの「きらきら星」の会や、マッシュクローにこもも達が参加したり、とても和やかな会となりました。特に、保育士さんによるハンドベル演奏はクリスマス気分を大いに盛り上げて参加者の皆さんに大好評でした。最後にサンタさんからのステキなプレゼントを買いとって美味しいケーキを食べて、楽しくクリスマス会が終了しました。



## 第8、9回 Jichi Joy café (通称: JJC)

30年度テーマ「働き方考える。In The Jichi」



第8回は小児泌尿器科の川合圭典先生をお招きして『素敵な王子様』と過ごす方法』をご講演いただきました。これまで先生と関わられた上司、病院スタッフ、患者さん、主夫である旦那さまそして息子さん、をつぎつぎに『王子様』として認定し、どんなときでも、ブレない女性泌尿器科医としてのプロフェッショナルな道のりを形成された川合先生の生き方に感銘を受けました。また、家庭での旦那さま・子供との効果的なコミュニケーション方法など、ご主人の主力の引き出し方など、とても参考になりました。



第9回は本学の産産医でもある保健センターの小川真規先生に『働く』というテーマでお話し頂きました。皆さんは「両立支援」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？医療職の立場として治療と就労の両立も大事ですが、今回は出産・育児を中心とした家庭と就労の両立を中心にお話し頂きました。育児支援の制度は整っていますが、家庭と就労の両立をすることは大変な現実があります。それを少しでも変えるためには、声を上げることが大切、というメッセージは参加者の心に強く残りました。また、支援と両立は対価関係にあることを理解し、支援に感謝する心を持つことが大切ということも改めて感じました。両立支援については、下記のHPも参考にしてください。

○厚生労働省委託事業 女性の活躍・両立支援 総合サイト 両立支援の広場: <http://ryouritsushihw.go.jp/>



★医師・研究者キャリア支援センターでは皆様の声をぜひ聴かせて頂きたいと考えています。  
ご意見等がありましたら気軽に御声下さい。  
※詳しい内容をHPにお覧しております。是非ご覧ください。

## 小児科医からパパ・ママに伝えたいこと

2018.11.9(金) 於:センター会議室

## 「身近に潜む子どもの脅威~Injury Alertの事例報告~」

保育ルーム「あいりす」の園医でもある小児科の横山孝二先生をお招きしまして、ご講演いただきました。今回のテーマは「身近に潜む子どもの脅威~Injury Alertの事例報告~」とし、19事例とその対応策を紹介解説していただきました。日常の育児の中で何気なく体験している事から起る予期せぬ事故の事例に参加者は大変驚いていました。

アンケートでは、「気を付けているつもりでも、危険なことが一杯の中で生活をしていることを認識できた。子どもを守るように頑張ろうと思う」などの意見を頂き、子育てに関する安全意識を高める非常に良い機会となりました。



## ＜次回行事予定＞

第15回 次世代医師・研究者交流会  
平成31年4月19日(金) 18:00~  
地域医療情報研修センター 大講堂  
大村智先生講演会  
ノーベル賞受賞者の貴重な講演会ですので是非ご聴講くださるようご案内いたします



医師・研究者キャリア支援センター  
内線: 2448  
mail: [career-support@jichi.ac.jp](mailto:career-support@jichi.ac.jp)  
保育ルーム「あいりす」  
内線: 2445  
直通: 0285-58-7572

# News Letter

医師・研究者キャリア支援センター

Vol. 31 2019/7/10



## ★新メンバー(アドバイザー・園医・園長)のご紹介！

次世代育成支援、就業継続支援、復職支援などを通じ働きやすい職場環境の改善、医師・研究者のキャリア形成について支援を行います。ご意見・ご希望・ご相談などありましたら、お気軽に声をかけ下さい。

### アドバイザー就任のご挨拶

学生生活支援センター  
山道 昭則 先生



今年度よりアドバイザーを拝命致しました。日々、キャリア形成や働き方などで支援が必要とされている方々は少なくないと思料します。いつでもご相談いただければ幸いです。皆で心と力を合わせて課題を解決していきましょう。支援・改善にも適切な学術があるため、各種専門家とのネットワークも活用し、国内外の有用な知見も取り入れていきたいと思料します。皆様にご貢献できますよう微力を尽くしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

### アドバイザー就任のご挨拶

保健センター  
秋根 大 先生



この4月よりアドバイザーを拝命いたしました。私自身がキャリア形成のまっただ中にあり、まだまだみなさまにアドバイスできるようなことはありません。しかし、状況をよくするためにみなさまと一緒に考えることはできるだろうと考え、お願いをありがたうお受けすることとしました。毎日がチャレンジの連続ですが、そのチャレンジを楽しめるようになりたいと思料しながら仕事をしています。お気軽にお声がけください。

### 保育ルーム「あいりす」園医就任のご挨拶

小児科  
村松 洋 園医



2019年度、園医を務めます小児科の村松です。「あいりす」では教職員の皆さまのキャリア支援や就労支援を目的に、病児保育や一時託児、送迎など実施しています。安心して利用できるよう職員一同、安全管理、体調管理、感染対策などに努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 保育ルーム「あいりす」園長就任のご挨拶

看護部副部長  
神田 貴代 園長

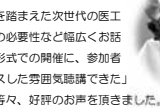
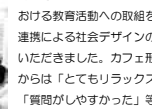


令和元年4月に保育ルーム「あいりす」園長に就任しました。「あいりす」スタッフの保育士、看護師、保育サポーター、担当事務が連携し、遊びや保育ルームの生活を通してお子さまが健全な成長・発達につながっていくように、安全で安心して過ごせる環境づくりを支援してまいります。常に子どもたちが明るい笑顔で過ごすことができ、利用される教職員の皆さんが安心して預けられる保育活動をしていきたいと思料します。

## サイエンスカフェ開催

..... 東京大学大学院情報学環/生産技術研究所・教授 大島孝先生

2月27日(水)新館南棟スカイラウンジにて第14回次世代医師・研究者交流会「サイエンスカフェ」を開催しました。今回は、メインテーマを「これからの科学や医療を担う次世代に、今私たちができること」とし、東京大学大学院教授大島孝先生に「進化する科学技術と医療の関係-これからの女性のキャリアを考える-」と題してお話頂きました。大島先生の自身のキャリア形成、育児等のお話から次世代育成オフィス(ONG)における教育活動への取組を踏まえた次世代の医工連携による社会デザイン上の必要性など幅広くお話をいただきました。カフェ形式での開催に、参加者からは「とてもリラックスした雰囲気聴講できた」「質疑がしやすいかった」等々、好評のお声を頂きました。



## ノーベル生理学・医学賞受賞 大村智先生来学!!



4月19日(金)18時より第15回次世代医師・研究者交流会を開催いたしました。第1部は地域医療情報研修センター大講堂に於いて、ノーベル生理学・医学賞受賞者でもある北里大学特別栄誉教授 大村智先生をお招きして「私の研究と社会貢献」と題した講演会、第2部は会場を西洋館に移し「学長、新副学長と語ろう 若手が活躍するこれからの自治医大-研究・留学・キャリア-」の学内交流懇話会が行われました。



### 参加者の感想

大村先生の研究の出发点から、アメリカ留学、そして日本に戻ってから国を超えた研究を進めて来られたことをご紹介いただきました。1つの小さな研究フィールドが世界規模の研究へとどんなに発展していくスケール感や、世界の中で自分の研究を発展させていく探究心、そして研究者として考えてきた、あるいは考えていくべき方向性について多くのメッセージを頂きました。講演の中のどのお話も印象的で感銘を受けました。特に、自分自身を含め研究者の好奇心や探究心、情熱を強く鼓舞して下さったように感じました。また、質疑応答で学生たちが積極的に関心している姿から、若い学生の方達にも力強いメッセージになったと思料します。なかなか良い成果が出せずに悩む毎日ですが、もう1つ積み重ねてやろうと思料するので、今一度頑張ります！

記: 次世代医師・研究者交流会世話人

### 《今後の行事予定》

- ・7月12日 第10回 Jichi Joy Café
- ・8月4日 「あいりす」夏祭り
- ・9月17日 第11回 Jichi Joy Café  
園医なき医師連での活動についての講演  
魚沼基幹病院 鈴木美奈先生
- ・9月24日 All Jichi Project

医師・研究者キャリア支援センター  
内線: 2448  
mail: [career-support@jichi.ac.jp](mailto:career-support@jichi.ac.jp)

保育ルーム「あいりす」  
内線: 2445  
直通: 0285-58-7572



# News Letter 医師・研究者キャリア支援センター

Vol. 32 2019/ 9 / 4

## ＊ 医師・歯科医師の 育児短時間勤務制度が変わります!!

### ＋育児しながら働くパパ・ママ、医師員不足に苦慮されている管理職の方に朗報です＋

現在の深刻な医師不足の状況や、昨年度当センターにて実施しました「保育施設ニーズアンケート」及び「研究者の就業制度拡充に向けた出産育児支援ニーズ調査」に皆様から寄せられましたご意見を基に、医師・研究者キャリア支援センターから「育児短時間勤務制度の拡充に対する要望書」を人事課に提出いたしました。その結果として、育児休業規定の一部が改正となります。★★★医師不足に苦慮されている管理職の方々やキャリア形成にお悩みのお母さんには大変有効な改正となります。

育児休業制度の改正内容詳細は、下記図解の通りとなります。

|            | ①特別休暇<br>(育児時間)                                                                                                                                      | ②育児短時間勤務<br>(週 30 時間勤務)                    | ③育児短時間勤務<br>(週 20 時間勤務)                         |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 対象者        | 女性職員                                                                                                                                                 | 1 日の所定勤務時間が 6 時間を超える職員                     | 医師又は歯科医師の免許を有する全ての教員、病院助教及びレジデント                |
| 取得可能期間     | 子の 1 歳の誕生日前日まで                                                                                                                                       | 子の 3 歳の誕生日前日まで                             | 子の小学校就学前まで                                      |
| 勤務免除時間     | 1 日 2 回、1 回につき 30 分                                                                                                                                  | 所定の勤務時間の始め又は終わりにおいて、1 日を通じて 30 分単位で 2 時間まで | 1 週間の勤務時間が 20 時間となるよう、1 日 8 時間又は 4 時間の勤務を組み合わせる |
| 他制度との組み合わせ | ※①育児時間+②育児短時間勤務・・・(但し 1 日最長 2 時間まで)<br>※①育児時間+③育児短時間勤務(週 20 時間)・・・(但し育児時間の取得は 1 日の勤務時間が 4 時間の日にあてはまる 1 回 30 分間まで)<br>※②育児短時間勤務+③育児短時間勤務(週 20 時間)・・・× |                                            |                                                 |

- ★ 有期限職員のうち次のいずれかに該当する者は申し出ることが出来ない。
- (1) 雇用期間が 1 年未満の者 (2) 1 週間の所定勤務日数が 2 日以下の者
- ★★ 所長が特に必要があると認めた場合は 3 年修了まで。
- ※ 従来の育児休業規程(育児短時間勤務)に「育児短時間勤務の特例」が新設されたものです。

## ★ 新入学生の保育ルーム「あいりす」見学会

2019. 6. 13 / 27

社会学 青山教授指導による新入学生の保育ルーム見学会が開催され、2 日間で 29 名の新入生が見学会に訪れました。保育ルーム「あいりす」館林事務局主任から、サポート内容、ルーム内の設備や一時託児、病児保育に関して注意している点などを細かく説明していただき、皆さん注意深く耳を傾けていました。

見学会終了後は、時間の都合がつく学生限定となりましたが、8 月開催のあいりす夏祭り準備として、「となりのトトロ」の形をした折り紙を製作し、お手伝いをしていただきました。4 月から新生活に忙しく過ごしていた新入学生の皆さんも、この製作を通して童心に戻り幼少期を懐かしむゆったりとした時間を少しでも持つ事が出来たのではないかと想像いたします。

「あいりす」では常時、見学や育児サポートボランティアを募集しています。お気軽にお問い合わせ、ご連絡ください。

## 第 10 回 Jichi Joy café 開催 (通称 JJC)

2019.7.12  
於:センター会議室

7 月 12 日(金)お昼の時間帯を利用して「第 10 回 Jichi Joy Café」を開催いたしました。今回は参加者へ実施した事前アンケートの結果に基づき、当センターアドバイザーがファシリテーターとなって意見交換をする形にて実施致しました。日頃の仕事、家庭、育児のお悩みから医師へ要望等々様々な事をディスカッション出来ました。中でも、職場で「お互いを理解しよう」には何が大切か?のテーマには「コミュニケーションの重要性や職場の環境作り、その為の体制作り」が必要などの意見が出されました。

Jichi Joy Café の特徴でもある、「暖かな雰囲気のもと 職種や立場を超えて話し合い お互いの理解を深める」ということが出来た会だったと思います。開催後アンケートでは、「いろいろな職種の方の意見を知ることができた」「ここでは悩んでいるキャリアのことなど、自由に話してもよいという雰囲気があったことが良かった」「参加者の悩んでいることを共有でき、この状況をなんとかしなければという共通の課題が浮き出た」等々の感想を頂きました。今後も多くの方に Jichi Joy Café に参加いただけるように、実施時間や内容を工夫してまいります。都合がございましたら参加して、自由で暖かな雰囲気を感じて頂ければと思います。



## 保育ルーム「あいりす」夏祭り

毎年恒例となりました「あいりす」夏祭りを、8 月 3 日(土)に開催いたしました。モンスタースボックス(玉入れ)、エアホッケー、魚すくい、ヨーヨー、ボーリングと色々なアトラクションに子供たちの明るい声が響きました。

アトラクションを楽しんだ後は、ボランティアの松本さん(職員 OB)によるシンセサイザーによる演奏で映画「となりのトトロ」メロデーや昨年大ヒットした DA PAUMP の「USA」そして今話題の「パブリカ」の曲に合わせて子供達も一緒に歌ったり、ダンスを踊ったり!! 大盛り上がりとなりました。楽しんでいる子供たちの微笑ましい姿に見ている大人達も自然に笑顔がこぼれるとても楽しい時間となりました。来年度も家族で楽しめる夏祭りを企画いたしますので、皆さん期待してお待ちください!

## 《今後の行事予定》

- ・ 9 月 17 日 第 11 回 Jichi Joy Café  
国境なき医師団での活動についての講話  
魚沼基幹病院 鈴木美奈先生
- ・ 9 月 24 日 All Jichi Project
- ・ 10 月 18 日 パパ・ママと子どもの食事はなし  
臨床栄養部  
栄養管理室長 茂木さつき先生

医師・研究者キャリア支援センター  
内線: 2448  
mail: career-support@jichi.ac.jp

保育ルーム「あいりす」  
内線: 2445  
直通: 0285-58-7572



# News Letter 医師・研究者キャリア支援センター

Vol. 33 2020/ 1 / 29

## ★ 2019 「働き方を考えるセミナー」を開催しました

スウェーデンの子育て支援・働くママ医師から「子育て+仕事 120%」

カロリンスカ大学病院 宮川絢子先生をお招きしました

令和元年 12 月 18 日(水) 本館北棟 講堂 1 に於いて、「働き方を考えるセミナー」を開催いたしました。

今年度は、遠くスウェーデンの地で活躍の宮川絢子先生に遠くご足をおたきまして、「子育て+仕事 120%!!!!」スウェーデンの子育て支援と題してご講演頂きました。

講演では、スウェーデンと日本の医療システムの違いや男女格差について、さまざまなデータを引用して分かりやすくお話いただきました。中でも、患者側からの厳しいアクセス制限や費用対効果判定による治療の選択・中止等、日本では容認を得られない様な医療システムの浸透には、聴講者の方々も皆大変驚いていました。また、宮川先生ご自身のお子様(双子)の出産や子育てを経験している中で、女性外科医としてのキャリアを目指す考え方を改めて伺いました。「生きるために働く」「人生は不公平」というご提言の中に、先生の女性外科医としての強い信念をお示して頂いた講演となりました。

聴講者からのアンケートでは、「日本とスウェーデンの両方の国を体験しておられるからこそのお話で大変興味深かった」「日本の意識改革が継続的に必要であると思った」「キャリアや働き方について考える機会となりました」などの様々な意見が寄せられました。

医師・研究者キャリア支援センターでは皆さんの働き方改革の少しでもお役に立てる催事をこれからも企画していきたいと考えております。催事につきましてはのご意見ご希望がございましたら、お気軽に医師・研究者キャリア支援センターまでご連絡、お問い合わせください。

※セミナーの模様は、自治医科大学図書館 P ビデオオンデマンドより視聴いただけます。(カテコリ→教育→教職員教育)

## 救急蘇生法講習会 (BLS)

2019.10/2019.11 の 4 日間

今年で 8 回目を数えた講習会は、サポート会員、保育ルーム保育士、事務局合計 31 名の参加となりました。講師を情報センター浅田先生とコミュニケーションセンター前田先生のお二人先生にお願ひし、実技を交え丁寧に指導いただきました。

受講者は、実技中も自分の疑問点を積極的に質問したり、受講者同士で教え合ったりする場面が多々見られ大変意欲的な姿勢が見られました。アンケートでは「乳児の人工呼吸が難しかった」との意見が多くみられました。これらも同講習会の定期開催により、救急蘇生法の技術定着とスキルアップを図り、利用者が安心して預けられる保育ルーム「あいりす」そして皆さんの就業を今後もサポートしていきたいと思っております。

デモンストラーションの様子

小児科医からパパ・ママに伝えたいこと

2019.11.26  
於:センター会議室

「熱性けいれん、ひきつけ、発作を起こしたら」

保育ルーム「あいりす」の園医をお勤めの小児科児科松澤教授をお招き致しまして、「熱性けいれん、ひきつけ、発作を起こしたら」をテーマにご講話いただきました。

子どものけいれん発作を見たことが無い参加者が殆どでしたが動画にて発作状況を事例が示していただいた事により、よくイメージでき、驚きとともに観察と記録の重要性も理解できた様子が見られました。

アンケートでは「対処方法も不安で冷静に対応したい」等の適切な対応への意欲付けを感じた意見が寄せられました。

## 第 11 回 Jichi Joy café 開催 (通称 JJC)

2019.8.17  
於:スカイラウンジ

9 月 17 日(火)に「第 11 回 Jichi Joy Café」を開催しました。

今回は、「医療人としてのキャリアビジョンを考える」というテーマで外部講師を招いて講演会形式で実施致しました。講師は新潟大学地域医療領域センター・魚沼基幹病院の産婦人科部長、鈴木美奈先生です。鈴木先生は国境なき医師団として海外でのご活躍経験があり、それらの貴重なご経験を多くの写真を通じて御講話頂きました。夢をもって努力すること、感謝の心を忘れないこと、スタッフと協力して診療にあたる姿勢など、医療人として本来あるべき姿をメッセージとして残して頂きました。

今回は医学部生の参加も多く、「夢を与えて頂いた」「先生のお話を地域医療に活かしたい」など、多数の感想が寄せられました。当センターでは皆さまから頂いたご意見を参考に、働き方の多様性やキャリアについて、今後も話題提供ができればと考えております。



## 保育ルーム「あいりす」Xmas 会

2019.12.14

於: 保育ルーム「あいりす」

12 月 14 日(土)に保育ルーム「あいりす」にて恒例のクリスマス会を開催しました。

当日は、19 家族スタッフを含め合計 54 名の方々にご参加頂きました。今年度の大イベントは、何となく保育士さん初挑戦の「フィンガーアクション」です。黒衣装の保育士さんがカラフルな手袋をつけて、今話題の「パブリカ」の曲に合わせてフィンガーアクションの披露、子供たちのまんまる目玉が釘付けとなりました。

その他、大型絵本目の読み聞かせやサンタさんからのプレゼント(目玉)を食べた、とても楽しいひと時となりました。来年も家族で楽しめるクリスマス会を企画いたしますので、皆さん期待してお待ちください!

## 《今後の行事予定》

- 第 12 回 Jichi Joy Café  
2 月 28 日(金) 12:30~14:00  
総合診療内科  
白石 裕子先生にご講話いただきます。

医師・研究者キャリア支援センター  
内線: 2448  
mail: career-support@jichi.ac.jp

保育ルーム「あいりす」  
内線: 2445  
直通: 0285-58-7572



## 統計(2019年度)

① 短時間勤務者(医師)

- ・ 20 時間時短勤務利用者数 24 名
- ・ 育児短時間勤務者数 25 名

② 保育ルーム「あいりす」

- ・ 利用件数 1,207 件
- ・ 利用会員数 162 名
- ・ サポート会員数 29 名

③ Jichi Joy Café

- ・ 第 10 回(R1.7.12) 参加者 18 名
- ・ 第 11 回(R1.9.17) 参加者 40 名

④ 「次世代医師研究者交流会 講演会」(H31.4.19) 参加者 283 名(男 146, 女 137)

⑤ 「働き方を考えるセミナー」(R1.12.18) 参加者 55 名(男 22, 女 33)

## 医師・研究者キャリア支援センター活動報告書（2019）

令和 2 年 11 月（発行）

発行元 自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター

<連絡先>

T E L      0285-58-7561

F A X      0285-44-8627

[career-support@jichi.ac.jp](mailto:career-support@jichi.ac.jp)





## アクセスマップ



JR 自治医大駅より徒歩 10 分